# JA全厚連情報

（毎月 1日 発行）
№1121 2022年11月1日

目　　次

□ ＪＡ全厚連令和５年度事業計画の骨子等について協議 1
□ 経営理論について体系的に研修 2
□ 新型コロナウイルス感染症にかかる対応等について協議 3
□ ＪＡ三重厚生連 いなべ総合病院を視察 4
□ 医師の働き方改革について研修 6
□ 改正個人情報保護法への対応について研修 7
□ 次世代看護管理者の育成等について研修 8

**・通信員だより**

敬老会の開催について（特別養護老人ホームところ） 10
令和４年度市民町民公開講座の開催（かづの厚生病院） 11
自衛消防訓練の実施について（大曲厚生医療センター） 12
開校50周年記念式典開催（土浦協同病院附属看護専門学校） 13
最後の戴帽式（土浦協同病院附属看護専門学校） 14
「新米キャンペーン」で国消国産ＰＲ（ＪＡ茨城県厚生連） 15
関東農村医学会学術総会にて優秀演題賞を受賞（相模原協同病院・伊勢原協同病院） 17
敬老会を開催（デイサービスセンターはだの・あいかわ・介護老人保健施設ほほえみの丘） 18
令和５年度新採用事務職員内定式を開催（ＪＡ神奈川県厚生連） 19
ＪＡしみずとの協定調印式（清水厚生病院） 20
ＪＡ女性部助けあい活動グループ交流集会で講演（ＪＡ静岡厚生連） 21
台風災害による飲料水等の支援をいただきました（ＪＡ静岡厚生連） 22
物流ドローンの災害医療での活用に向けた実証実験に参加しました（足助病院） 23
令和５年度愛知県予算・施策に関する要望書を提出しました（ＪＡ愛知厚生連） 24
新型コロナワクチン大規模集団接種関係者として愛知県知事より感謝状を贈呈いただきました（JA愛知厚生連） 25
卒後２年目看護職員研修会を開催しました（ＪＡ三重厚生連） 26
医療安全研究発表会を開催しました（ＪＡ三重厚生連） 27

ＪＡ厚生連

©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町1-3-1 ＪＡビル
ＴＥＬ（03）3212-8000　ＦＡＸ（03）3212-8008
E-Mail: shien@ja-zenkouren.or.jp
（経営支援グループ）
http://www.ja-zenkouren.or.jp
編集責任者　中村　純誠

# ＪＡ全厚連令和５年度事業計画の骨子等について協議

## 事業企画委員会を開催

本会は９月15日、22日に、東京・大手町のＪＡビルにおいて、事業企画委員会をＷＥＢ併催した。

15日は医療事業部門（医療事業厚生連の常勤役員で構成）を開催し、（１）ＪＡ全厚連令和５年度事業計画の骨子、（２）新型コロナウイルス感染症にかかる対応、（３）厚生連の令和４年７月末経営収支状況、（４）令和４年度早期収支改善を要する厚生連の対応状況、（５）改正個人情報保護法にかかる対応、（６）コロナ禍における財政支援等にかかる緊急要望、（７）看護職員の処遇改善にかかる診療報酬上の対応、（８）日本郵政共済組合における人間ドック業務にかかる連携、（９）ＪＡ厚生連の事業・活動の優良事例集の作成、(10) 厚生連職員向け研修の充実、(11) ＪＡ全厚連への職員の派遣―等について検討した。

そのうち、（１）について、委員からは「電気代、食費、衛生材料等の価格が上がり様々な業種が値上げを行っている中で、医療の値上げは診療報酬改定を待たなければならない」といった意見が出された。

22日は保健事業部門（健康管理厚生連の常勤役員で構成）を開催し、（１）ＪＡ全厚連令和５年度事業計画の骨子、（２）健康管理厚生連活動推進検討会の協議状況、（３）新型コロナウイルス感染症にかかる対応、（４）厚生連の令和４年７月末経営収支状況、（５）コーケンを活用した医療材料の廉価購入に向けた取組み、（６）令和４年度早期収支改善を要する厚生連の対応状況、（７）改正個人情報保護法にかかる対応、（８）日本郵政共済組合における人間ドック業務にかかる連携、（９）ＪＡ厚生連の事業・活動の優良事例集の作成、(10) 厚生連職員向け研修の充実、(11) ＪＡ全厚連への職員の派遣―等について検討した。

そのうち、（２）について、委員から、受診率を上げるために行っている取組みについて説明があった。

# 経営理論について体系的に研修

## 厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）をＷＥＢ開催

本会は厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）の１日目（９月21日）をＷＥＢで開催した。

経営管理職層育成研修会は、日常業務では習得しづらい経営管理に必要な知識の習得とマネジメント能力の向上を図ることを目的に、病院・施設の運営および管理を将来担う予定者を対象に実施している。これまで財務・会計分野にかかる研修会（基礎編・応用編）を開催してきたが、厚生連全体を１つの組織として経営する職員を育成するために、昨年度から新たに経営理論にかかる研修会（経営理論編）を開催することとし、12厚生連から21名が参加した。

研修会は、㈱経営革新ラボ代表取締役で経営コンサルタントの田村健二氏を講師に迎え、全３日間の日程で経営理念・ビジョン・経営戦略・経営計画・戦略実行の関係等について体系的に学ぶ。

１日目は、組織行動の基本と経営メカニズムをテーマに、①JA厚生連の特色、②組織とは、③組織の能力最大発揮の条件、④経営管理職の役割と行動―について研修を行った。また、事前課題として「経営管理職としての行動チェックシート」を各参加者は記入し、チェックシートにもとづきグループに分かれてディスカッションを行った。

参加者からは「新たな視点を得られる良い機会であった」、「改善方法や気持ちの持ち方を学べた」等の感想が寄せられた。

研修の様子

次回（経営理論編２日目）は、戦略構想の基本をテーマに、10月19日の開催を予定している。

# 新型コロナウイルス感染症にかかる対応等について協議

## 厚生連常勤役員・参事会議を開催

本会は９月27日に東京・大手町のＫＫＲホテル東京において、ＷＥＢ会議システムを併用して、厚生連常勤役員・参事会議を開催した。

会議に先立ち、岡本利久氏（厚生労働省医政局　総務課長）が「これまでの感染対策及び今後の対応等について」をテーマに講演を行った。講演では、新型コロナウイルス感染症の直近の感染状況や国のこれまでの取組みを紹介したのち、今後の取組みについて説明があった。今後の取組みでは、新型コロナウイルス緊急包括支援交付金について、令和４年９月までとされていた病床確保料の支給が令和５年３月末まで延長されたが、10月より一定の条件のもと病床確保料を調整する措置が新たに創設されることが説明された。また、令和６年４月１日に施行予定の感染症法の改正案について、都道府県が定める予防計画等に沿って、都道府県等と医療機関等の間で、病床や外来医療の確保等に関する協定を締結する仕組みなどの説明があった。

講演を行う岡本氏

会議では、協議・報告事項として、（１）ＪＡ全厚連 令和５年度事業計画の骨子、（２）新型コロナウイルス感染症にかかる対応、（３）厚生連の令和４年７月末経営収支状況、（４）令和５年度厚生労働省所管予算の概算要求等、（５）コロナ禍における財政支援等にかかる緊急要望、（６）看護職員の処遇改善にかかる診療報酬上の対応、（７）ＪＡ厚生連の事業・活動の優良事例集の作成、（８）厚生連職員向け研修の充実、（９）ＪＡ全厚連への職員の派遣―等について協議・報告した。

また、会議の終わりに各厚生連から現状等について報告いただき、病床確保料の新たな措置に懸念を抱いているとの意見や、光熱費や食材費、医療機器・資材等の高騰が大きな問題となっているとの意見が挙がり、ＪＡ全厚連から議員連盟等を通じて政府へ要請してほしいとの要望があった。

# ＪＡ三重厚生連 いなべ総合病院を視察

## 農民の健康を創る会、現地視察を実施

自由民主党の議員連盟「農民の健康を創る会」は、９月 28 日、ＪＡ厚生連の保健・医療・高齢者福祉事業の実態などを把握し、今後の政策提言等へ反映させることを目的に、三重県いなべ市のＪＡ三重厚生連 三重北医療センターいなべ総合病院（相田直隆院長）を視察し、意見交換を行った。

農民の健康を創る会・森山会長

視察には、森山裕会長、金田勝年会長代行、三ッ林裕巳事務局長、細田健一幹事、島村大幹事、山田俊男幹事のほか、自民党三重県連の田村憲久会長が参加し、農林水産省、厚生労働省ならびにＪＡ全中・ＪＡ全厚連の役職員が同行した。

ＪＡ三重厚生連からは、庄山隆裕代表理事理事長をはじめ、いなべ総合病院・相田院長らが参加した。

現地では、いなべ総合病院を視察した後、ＪＡ三重厚生連およびいなべ総合病院の概況説明が行われた。

病院施設を視察する様子

概況説明では、相田院長から、医師確保のため、中規模の病院では数少ない手術支援ロボット・ダヴィンチを導入しているほか、行政と連携して寄附講座を設立していること、また、行政・地元企業と連携して円滑なワクチン接種体制の構築に取り組んでいること等について説明があった。

引き続き行われた意見交換では、ＪＡ三重厚生連から、①看護師の処遇改善、②円安・原油価格の高騰等による物価高騰への対応、③医師の偏在是正および医師の働き方改革への対応、④特別の療養環境にかかる病床（差額病床）数の割合の見直し―等について要望が行われた。

参加した議員からは「地方の病院では医師不足によって働き方改革への対応がすすまないということになり、ますます医師の確保が困難になるという悪循環が想定される。悪循環が生じると、地域医療の維持ができなくなる」等の発言があり、活発な意見交換が行われた。

意見交換終了後は、バスで移動し、三重北医療センター菰野厚生病院を車内から視察した。

**意見交換の様子**
**左から山田幹事、島村幹事、細田幹事、三ッ林事務局長、森山会長、金田会長代行、田村議員、JA全厚連・山野会長、JA全厚連・中村理事長、JA三重厚生連・庄山理事長**

# 医師の働き方改革について研修

## 病院経営セミナーをＷＥＢ開催

本会は９月29日、病院経営セミナーをＷＥＢで開催し、32厚生連から173名が参加した。

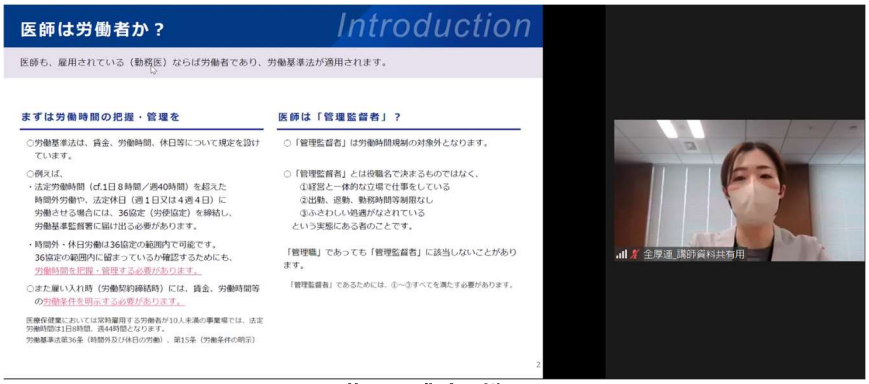
本セミナーは、病院経営に必要なマネジメント能力の向上、厚生連病院間の情報共有を図り、病院経営の改善に資することを目的に開催しており、当日は事例報告として「働き方改革への取組みについて」（山岸文範・ＪＡ新潟厚生連糸魚川総合病院　病院長）、講演として「今こそ知りたい！医師の働き方改革―制度の施行に向けて医療機関に求められる取り組みとは―」（藤川　葵・厚生労働省医政局医事課医師等医療従事者働き方改革推進室　室長補佐）が行われた。

この中で山岸氏は病院の働き方改革について、糸魚川総合病院では、各部門にヒアリングを行い、対応可能な場所から取組みをすすめていると述べた。

藤川氏は、医師の働き方改革の制度内容や、今後の手続きなどについて説明した。

参加者からは「働き方改革については病院全体で取り組んでいくことが大切であるが、サポートを受けながらの取り組みも効率的であると思った」「働き方改革の制度、仕組み、準備について参考になった」等の感想が寄せられた。

山岸氏講演の様子




藤川氏講演の様子

# 改正個人情報保護法への対応について研修

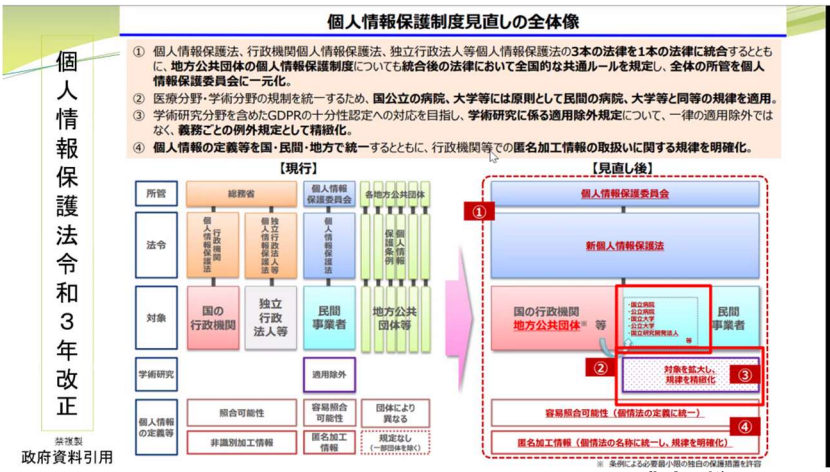
## コンプライアンス・リスクマネジメントセミナーをＷＥＢ開催

本会は10月４日、コンプライアンス・リスクマネジメントセミナーをＷＥＢで開催し、30厚生連から96名が参加した。

本セミナーは、コンプライアンス等にかかる知識の向上、課題や取り組みの共有等を目的に開催しており、今回は「改正個人情報保護法と個人データの漏えいへの対応について」（小町谷育子・法律事務所Legal ｉプラス　弁護士）の講演が行われた。

講演の中で小町谷氏は、実際の事例をもとに、個人情報保護法上の報告対象になるのか、ならないのかの判断基準について説明を行った。

参加者からは、「例題を用いての説明が非常にわかりやすく参考になりました」「個人情報漏えいについての取扱基準がよくわかり大変良かった」等の感想が寄せられた。



小町谷氏講演の様子

# 次世代看護管理者の育成等について研修

## 厚生連病院看護部長セミナーをＷＥＢ開催

本会は 10 月 6 日と 7 日の両日、厚生連病院看護部長セミナーをＷＥＢで開催し、21 厚生連から 113 名が参加した。

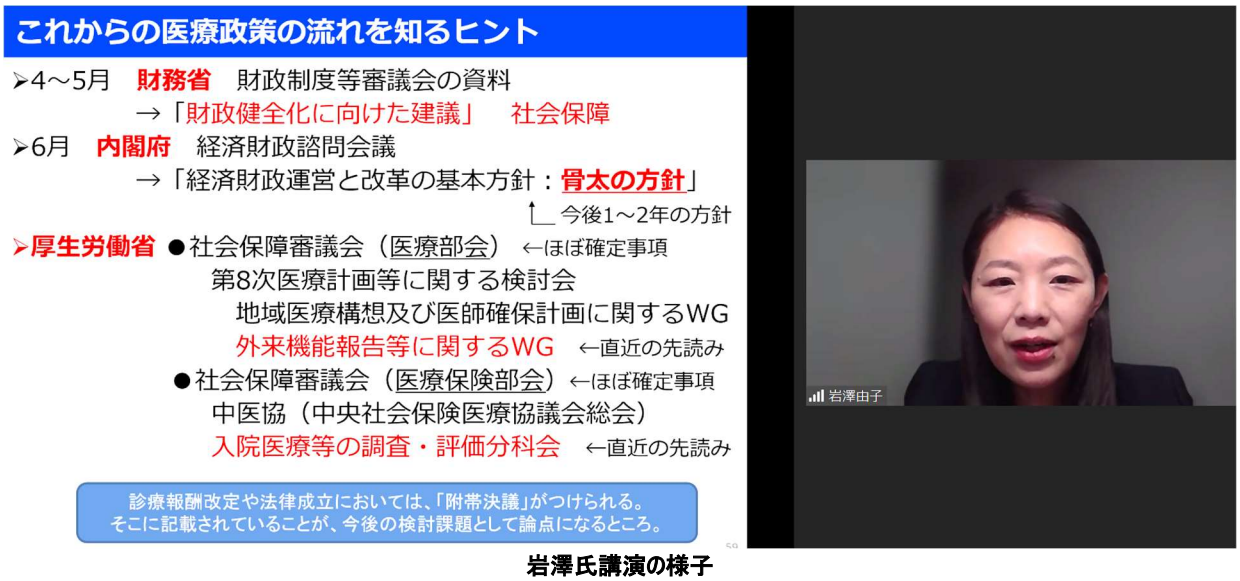
本セミナーは、看護業務や病院経営全般にかかる情報の取得、厚生連病院看護部長間の連携の促進を図ることを目的に開催しており、本年度のセミナーは、メインテーマを「時代を読み未来につなぐ～まずは看護部長が元気になろう～」とし、２日間にわたり以下３題の講演と情報交換・グループディスカッションを行った。

(1)「2022 年度診療報酬改定　看護部としての対応」
　　（岩澤由子・公益社団法人日本看護協会　医療政策部　部長）

(2)「次世代看護管理者の育成」
　　（別府千恵・北里大学病院　副院長・看護部長）

(3)「心理的に安全な組織を作る」
　　（平林慶史・有限会社ノトコード 代表取締役）

１日目は(1)で岩澤氏が、診療報酬改定の流れを読む力、医療政策の流れを理解することが重要だと述べ、2022 年度の診療報酬改定のポイントと 2024 年度診療報酬改定のゆくえについて説明した。



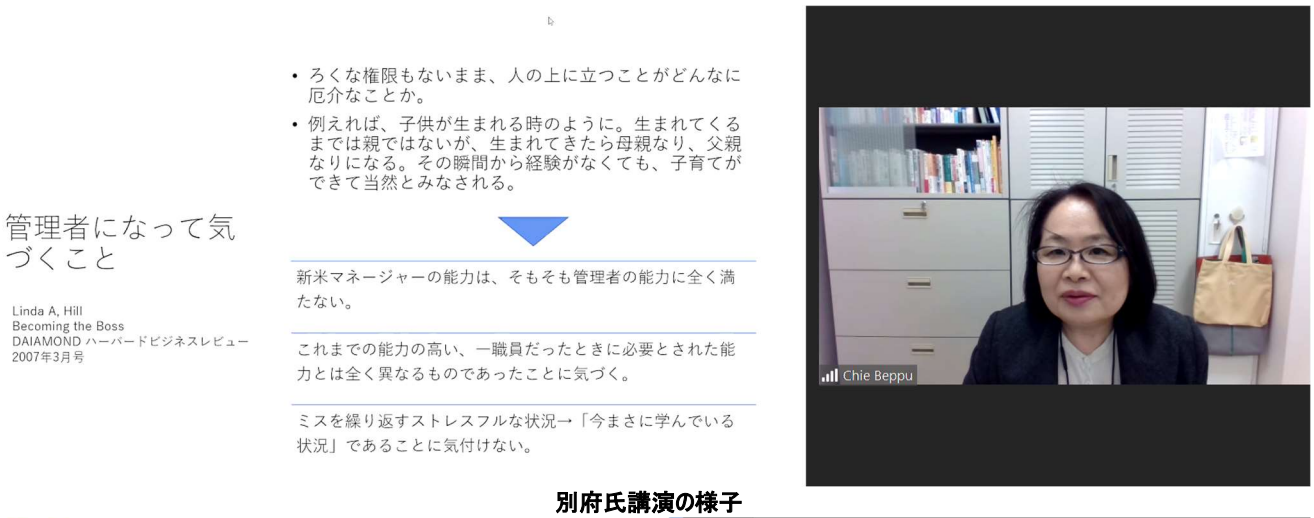

**岩澤氏講演の様子**

その後、情報交換・グループディスカッションの時間を設け、病院・本部勤務者は「①働き方改革に向けた対応（看護補助者の活用、他職種連携）、②看護師の処遇改善への対応」について、看護学校勤務者は「①発達障害の学生に対する対応、②看護基礎カリキュラム改正にともなう対応、③次世代の教員養成に関する対応」についてグループに分かれディスカッションを行った。

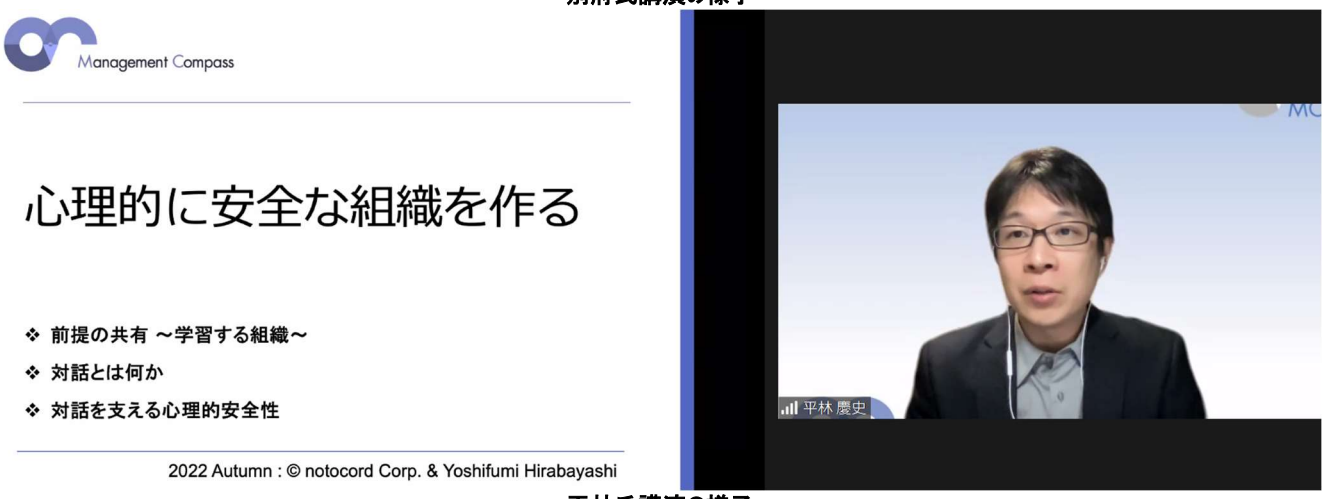
２日目は、(2)で別府氏が、看護管理者が、次世代の看護管理者育成のために必要な対応や考え方について、北里大学病院での取り組みを交えながら説明した。

また、(3)で平林氏は心理的に安全な組織を作るために、会話ではなく対話を行うことが必要だと述べ、部下との接し方について、具体的な対応方法を説明した。

最後に、望月　環・ＪＡ長野厚生連人材確保対策室長が「厚生連看護問題検討会の取り組み」として、昨年１年間の活動と「厚生連病院の看護情報データ収集事業」において実施した看護情報データの集計結果を報告した。




別府氏講演の様子




平林氏講演の様子

口通信員だより口

# 敬老会の開催について

（ＪＡ北海道厚生連・特別養護老人ホームところ）

特別養護老人ホームところ（京谷幸子施設長）では、１Ｆ正面玄関ラウンジにて、「敬老の日」にあたり９月22日に入居者様のご長寿を祝い「敬老会」を開催いたしました。

今年は、数え歳で米寿（88歳）が３名、白寿（99歳）が１名、長寿（100歳超）が３名の入居者様が対象となり、お祝いの花束と記念品が贈呈されました。

コロナ禍において、御来賓をお招きしての開催は制限させていただいておりますが、対象となった入居者様は大変喜ばれており、笑顔あふれる１日となりました。今後も皆様が末永く健やかに過ごされますことを従業員一同心よりお祈り申し上げます。

敬老会記念写真

花束贈呈

（佐々木萌通信員）

# 令和４年度市民町民公開講座の開催

（ＪＡ秋田厚生連・かづの厚生病院）

鹿角市文化の杜交流館コモッセで年に一度の秋田県・鹿角市・小坂町・岩手医科大学・かづの厚生病院（吉田雄樹病院長）主催の市民町民公開講座を開催しました。

コロナ禍で向かえた、３回目の市民公開講座でしたが、換気や検温、座席間隔に配慮した上での開催となり150人程の市民町民の参加がありました。

「糖尿病について」というテーマでは、当院の消化器内科医長の久米井 智先生が講師を務め、糖尿病の基礎的な知識や現状、改善方法などについて講演し、生活習慣や健康について改めて考える機会となりました。参加者の多くは、糖尿病予防や仕組みについての講演に真剣な眼差しで参加し、メモを取る方もいるほど興味深い内容でした。参加者の中には、実際に糖尿病を患っている方もおり、講演後の質疑ではこんなことに困っているという質問が寄せられましたが、久米井先生の丁寧な回答に質問者もほっとした表情を見せていました。

例年よりも質疑応答が多く、地域住民の糖尿病へ関する関心度が高いと感じました。最後に久米井先生が「不安なことがあったらすぐに相談しに来てください」と温かい言葉で締めくくりました。

**令和4年度市民町民公開講座の様子**

（三浦由佳通信員）

# 自衛消防訓練の実施について

（ＪＡ秋田厚生連・大曲厚生医療センター）

大曲厚生医療センター（三浦雅人病院長）では、職員が防災の基本的な知識・諸動作を身につけるため、搬送・消火・通報の３つの訓練を実施しました。搬送訓練では停電によりエレベーターが停止したことを想定して、エアーストレッチャーを使用し、自力では避難することのできない傷病者・転院搬送患者を階段で搬送する訓練を実施しました。消火訓練では実際に消火用散水栓・消火器を使用し、職員が有事の際に正しく使用できるように使用方法を身につけるとともに、初期消火の手順を確認することができました。通報訓練では院内での火災発生を想定し、火災通報装置の使用方法を確認しました。出火場所・燃焼物・逃げ遅れの有無等、火災状況を的確に伝えることを意識し、実際に消防署へ模擬通報を行いました。

医療機関において災害時は確実に状況を把握し、多職種が連携して患者さんや病院利用者を避難させなければなりません。これからも当院では、いざ災害が発生した場合に対処法が分からず慌てることのないよう、人命の安全を第一に考え、職員一人ひとりが冷静かつ迅速に活動が行えるよう、今後も訓練を継続して実施していきます。

**自衛消防訓練の様子**

（三浦由佳通信員）

# 開校50周年記念式典開催

（ＪＡ茨城県厚生連・土浦協同病院附属看護専門学校）

ＪＡ茨城県厚生連（酒井義法・代表理事理事長）が運営する土浦協同病院附属看護専門学校（渡部誠一学校長）では、10月８日、開校50周年記念式典が開催されました。

地域や近隣の医療機関、他の団体の方々に感謝の意を表すこと、同校が今後も更なる発展ができるようにという思いから開催された今回の式典には、地方公共団体の長や教育機関の長などの多くの来賓の方々や、その後に行われる戴帽式を控えた学生が出席しました。

『50年の歩みと地域に必要とされる看護師育成をめざして』をテーマに掲げ、これまでの歩みについてスライドショーの上映、また、同校卒業生による現在の看護師としての活動紹介が行われました。

酒井義法代表理事理事長は挨拶で「今後の地域包括ケアシステムの中で、看護師の果たすべき役割は多岐に渡り、大変重要な位置に就くと思われる。今回を新たなスタートとして受け止め、看護師育成に精進していきたい。」と話しました。

また、渡部誠一学校長は式辞で「救急医療、周産期医療、高齢者医療、そして感染症医療など、現代の医療は多様なニーズに応えている。しかし、どの領域でも患者との接点は看護師であり、医療の要となっている。この点を常に念頭に置き、充実した看護教育の実践に努めたい。」と話しました。

渡部学校長による式辞

（酒井一彦通信員）

# 最後の戴帽式

（ＪＡ茨城県厚生連・土浦協同病院附属看護専門学校）

ＪＡ茨城県厚生連（酒井義法・代表理事理事長）が運営する土浦協同病院附属看護専門学校（渡部誠一学校長）では、10月８日、第49期生の戴帽式が行われました。業務上での支障や衛生面の観点により、ナースキャップは医療現場でほぼ廃止となっていることから、今回が最後の戴帽式となりました。

午前に行われた開校50周年記念式典に参加し、同学校のこれまでの歩みや卒業した先輩看護師の現場での活躍が紹介された後での開催となったこともあり、学生たちは身が引き締まる思いで式に臨みました。

戴帽の儀では２年生72名が真新しいナースキャップを被り、ナイチンゲール像のキャンドルから自分のろうそくに火を灯し、ナイチンゲール誓詞を唱和しました。

渡部誠一学校長は「３年間の学習で今日は折り返し地点。立派な看護師になれるように、今後１年半の学習に精一杯頑張ってほしい」と激励の言葉を述べました。

３年生代表の山田妃夏（ひな）さんは「灯の誓詞で誓った看護の心や周囲への感謝の気持ちを忘れずに、看護師という目標へ向かってともに歩んでいきたい。」と祝辞を伝え、それに対し、２年生代表の生井葉月さんは「ナースキャップを戴いた今日のこの感動を忘れず、日々精進し、一歩一歩着実に看護の道を歩んでいきたい。」と答辞を述べました。

ナイチンゲール誓詞を唱和する戴帽生

式終了後、ナースキャップを身に着けた戴帽生からは、改めて看護師になるという強い決意が感じられました。

（酒井一彦通信員）

# 「新米キャンペーン」で国消国産ＰＲ

（ＪＡ茨城県厚生連）

ＪＡグループ茨城が取り組んでいる、食料自給率の向上を目的とした「国消国産」の取り組みに賛同し、ＪＡ茨城県厚生連（酒井義法・代表理事理事長）では「新米キャンペーン」と称して茨城県産の新米を病院給食にて積極的に振舞う活動を行っています。

本会が運営する水戸協同病院、県北医療センター高萩協同病院、土浦協同病院、ＪＡとりで総合医療センター、茨城西南医療センター病院において、患者に安心して美味しく味わってもらえるように、今回、地元ＪＡが生産し茨城県産の新米であることをＰＲしたポスターを作成しました。

このように、病院食を通じて国内産の食料に関心を持ってもらい、今後も食料自給率の向上や農業生産の基盤強化に貢献できるように取り組んでいきたいと思います。

**茨城県産新米キャンペーンのポスター**

（酒井一彦通信員）

# 関東農村医学会学術総会にて優秀演題賞を受賞

（ＪＡ神奈川県厚生連・相模原協同病院・伊勢原協同病院）

９月 10 日、第 80 回関東農村医学会学術集会がＷＥＢで開催されました。神奈川県厚生連（高野靖悟・代表理事理事長）からは、相模原協同病院（井關治和病院長）、伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）、の診療部、看護部、医療技術部より一般演題を 20 題近く発表しました。そのうち医療技術部の３演題が優秀演題賞を受賞しました。

来年は相模原協同病院が主催となります。コロナ禍で開催形式が変化していますが、日々の活動の成果を発表できる場にできるよう努めてまいります。

診療部の発表

医療技術部の発表

発表を終えた演者のみなさん

（新嶋友梨恵通信員）

# 敬老会を開催

（ＪＡ神奈川県厚生連・デイサービスセンターはだの）
（デイサービスセンターあいかわ）
（介護老人保健施設ほほえみの丘）

９月 19 日の敬老の日に合わせて、デイサービスセンターはだの・あいかわ（野田吉和センター長）、介護老人保健施設ほほえみの丘（蒔田知美施設長）では敬老会を行いました。

利用者様のご健康とご長寿にお祝いの意を込めて、表彰状や記念品の贈呈や催し物を行い、利用者様の嬉しそうな表情を見ることが出来ました。

昼食のお祝い膳も豪華で皆様おいしそうに召し上がっていました。これからも利用者様に楽しく元気にお過ごしいただけるよう、職員一同尽力してまいります。

デイサービスセンターはだの

デイサービスセンターはだの お祝い膳

デイサービスセンターあいかわ

介護老人保健施設ほほえみの丘

（新嶋友梨恵通信員）

# 令和５年度新採用事務職員内定式を開催

（ＪＡ神奈川県厚生連）

10 月３日、ＪＡ神奈川県厚生連・本所（高野靖悟・代表理事理事長）にて、令和５年度新採用事務職員内定者６名を対象に内定式が行われました。式終了後には、内定者同士の自己紹介が行われ、「学生時代に頑張ったこと」「やってみたい仕事」などを発表し合いました。同期入会する内定者と入会に向けて仲が深まった様子でした。

理事長よりご挨拶

事務職員内定者 6 名

内定者同士の自己紹介

（新嶋友梨恵通信員）

# ＪＡしみずとの協定調印式

（ＪＡ静岡県厚生連・清水厚生病院）

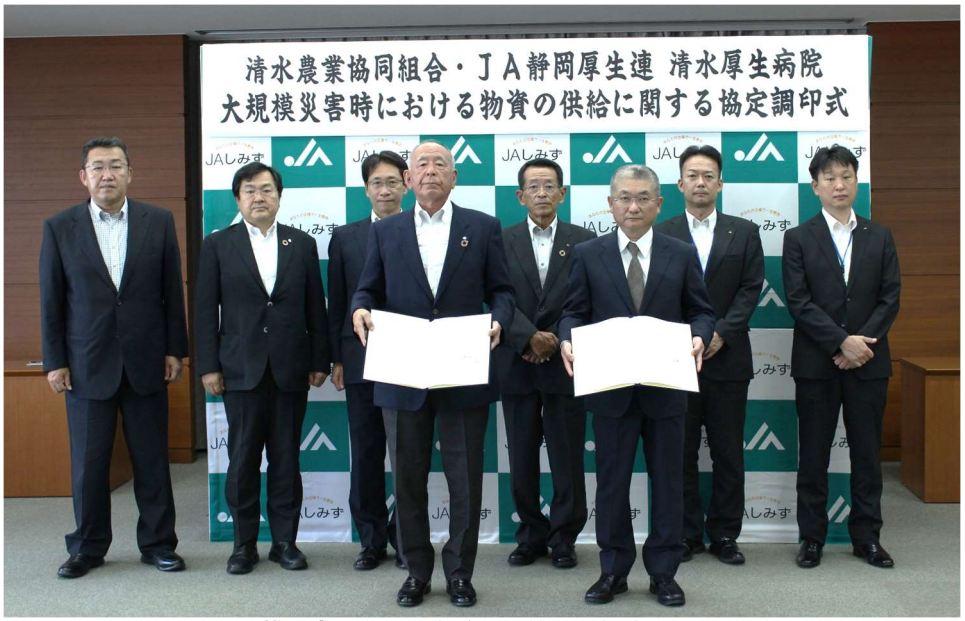
８月８日、清水厚生病院（西村明人病院長）は、大規模災害時における物資の供給に関する協定をＪＡしみず（柴田篤郎・代表理事組合長）と締結し、ＪＡしみず本店にて、調印式が行われました。

調印式の様子

この協定は、大規模災害により物流や市場機能が停止した際に、ＪＡしみずが取り扱う品目を清水厚生病院に提供することで、医療機能の維持・継続した病院食の提供することを可能にします。

調印に先立ち、ＪＡしみずの柴田篤郎組合長は「清水厚生病院が災害時に機能していることが地域住民にとって安心感を与えることになるので、ＪＡしみずとしても協力していきたい。」と挨拶しました。

また、西村明人病院長は「災害発生時には清水区内の災害拠点病院としての役割を果たすため、患者・職員の食糧、様々な物資の確保は必要不可欠となる。この協定を機に、更なる体制構築に努めたい。」と話しました。



大規模災害時における物資の供給に関する協定調印式

（望月俊宏通信員）

# ＪＡ女性部助けあい活動グループ交流集会で講演

（ＪＡ静岡厚生連）

９月13日、ＪＡ静岡厚生連（荒田庄治・代表理事理事長）の山口友里管理栄養士はＪＡ静岡女性組織協議会開催のＪＡ女性部助けあい活動グループ交流集会で「免疫を高める食生活」をテーマに講師を務めました。

各ＪＡ女性部からＷＥＢでの参加者を含め240名が参加しました。

健康ですごすために３食しっかりとバランスよく食べることの重要性を伝えました。

**講演の様子**

（望月俊宏通信員）

# 台風災害による飲料水等の支援をいただきました

（ＪＡ静岡厚生連）

９月 23 日から 24 日にかけて接近した台風 15 号の影響により、静岡市清水区にある清水厚生病院（西村明人病院長）と介護老人保健施設きよみの里（伊藤歩施設長）が断水となりました。

大規模な断水が続く中、静岡県経済農業協同組合連合会（加藤敦啓・代表理事理事長）様、全国厚生農業協同組合連合会（中村純誠・代表理事理事長）（(株)コーケン（山本浩彦・代表取締役社長））様、日本文化厚生農業協同組合連合会（東公敏・代表理事理事長）様等より飲料水の支援提供、また、自衛隊や県外自治体の給水車による給水も行っていただきました。

多くの温かいご支援とご協力・お心遣い、誠にありがとうございました。

今後もＪＡ組合員、地域住民の皆様の健康のため、尽力してまいります。

**自衛隊や県外自治体からの給水車による給水の様子**

**飲料水の支援提供**
**（左）清水厚生病院　（右）介護老人保健施設きよみの里**

（望月俊宏通信員）

# 物流ドローンの災害医療での活用に向けた実証実験に参加しました

（ＪＡ愛知厚生連・足助病院）

９月２日、豊田市の香嵐渓広場で株式会社SkyDrive・足助病院が主体となり物流ドローンを使用した実証実験を行いました。愛知県の三河地方を流れる巴川にかかる橋が災害で崩落し、香嵐渓広場で孤立してしまった観光客を想定し医療資材等をドローンで運搬するものです。残念ながら当日は大雨のためドローン飛行はできませんでしたが、足助警察誘導でドローン離陸地点までの物資運搬と当院職員による物資到着後の応急救護デモンストレーションを実施しました。

医療資材到着後のデモンストレーション

飛行予定であったドローン。リベンジを検討中です

ドローン操作について説明を受ける様子

ドローンによる運搬予定であった医療資材等

株式会社 SkyDrive 福澤 CEO と小林院長の会見

（井桁千聡通信員）

# 令和５年度愛知県予算・施策に関する要望書を提出しました

（ＪＡ愛知厚生連）

９月８日、ＪＡグループ愛知として愛知県保健医療局に対し、令和５年度の予算・施策への要望を行いました。本会から長谷川会長、宇野理事長他６名が出席し、吉田保健医療局長他６名に医療等における支援を要請しました。吉田局長より「ＪＡ愛知厚生連は、高度急性期医療から地域に密着した医療で多大なるご貢献をいただき、感謝申し上げます。コロナ禍の大変厳しい中、今後も地域医療の推進・コロナ対策連携を図りながら取り組むため引き続きご協力を賜りたくお願い申し上げます。」とお言葉をいただきました。

**要請事項は職員向け広報誌「こうせい」・外部向け広報誌「With 厚生連情報」の特集で解説しています**

（井桁千聡通信員）

# 新型コロナワクチン大規模集団接種関係者として愛知県知事より感謝状を贈呈いただきました

（ＪＡ愛知厚生連）

９月 22 日、愛知県庁にて新型コロナワクチン大規模集団接種関係者への感謝状贈呈式が行われ、ＪＡ愛知厚生連（宇野修二・代表理事理事長）より長谷川会長と宇野理事長が出席いたしました。

本会は、2021 年７月３日～11 月６日の毎週土日、2022 年２月５日～の毎週土曜日で安城更生病院に設置した大規模集団接種会場にて会場運営にあたり、2022 年９月末までで４万 7,216 回の接種を実施してきました。10 月１日からはオミクロン株対応ワクチンの接種を開始しています。

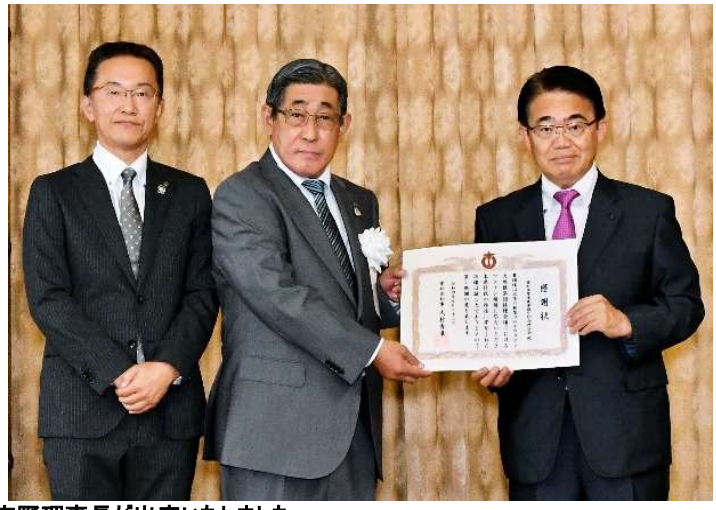
感謝状

愛知県厚生農業協同組合連合会 殿

貴団体は本県の新型コロナワクチン大規模集団接種会場におけるワクチン接種に尽力いただき本県行政の推進に寄与された功績は誠に大でありますので深く感謝の意を表します

令和四年九月二十二日

愛知県知事 大村秀章



**授与式は長谷川会長と宇野理事長が出席いたしました**

（井桁千聡通信員）

# 卒後２年目看護職員研修会を開催しました

（ＪＡ三重厚生連）

ＪＡ三重厚生連（庄山隆裕・代表理事理事長）では、卒後２年目の看護職員110名を対象に研修を実施しました。

コロナ禍のなか就職した今年２年目の看護師は、就職後の新人研修で臨地経験を積み、技術実践力を学びました。しかし実習経験不足の影響は持続し、イベントや交流会等の機会も少なく、配属部署での仲間意識を培うことが難しいと感じていました。

また、２年目の看護師は、企画された指導や相談の機会が減ることから、同期や先輩看護師との交流の機会を作り、看護師としての自覚と、看護への思いを再燃させることをねらいに実施しました。

大人数での研修は感染対策の観点から問題があること、および少人数のグループディスカッションを中心に進めるため、６月から 10 月にかけ８回にわけて開催しました。

朝のオリエンテーション時にはぎこちなかった参加者も、グループでのディスカッションが進むなかで徐々に打ち解け、嬉しかったことやつらかった経験、仕事上の悩みなどが聞かれるようになり、最後には、「つらいこともあるが、看護師としてもっと経験を積みたい」という前向きな発表がありました。

今後の看護師としての活躍を期待しています。

2年目研修風景（ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ）

2年目研修風景（ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ）

（教来石信彦通信員）

# 医療安全研究発表会を開催しました

（ＪＡ三重厚生連）

ＪＡ三重厚生連（庄山隆裕・代表理事理事長）では、８月19日「第６回医療安全研究発表会」をＷＥＢ形式で開催しました。

各事業所における、医療安全に関する分析と対策への取組みを全員で共有し、医療安全対策の底上げを図るため、平成28年度に始まったこの発表会も、コロナ禍の影響を受け中止を余儀なくされてきました。

今年度も集合しての発表形式は取り止め、７事業所からZOOMで演題発表が行われ、審査の結果、鈴鹿中央総合病院「当院におけるビーフリード輸液未開通事例の分析と対策」が最優秀演題賞に選ばれました。また、過去１年間の取組みを評価する医療安全改善度最優秀病院賞には、大台厚生病院が選ばれました。

| | 演　題 | 演　者 |
|---|---|---|
| 優秀賞 | 繰り返される患者誤認を分析<br>～過去の事案をひもとく～ | 三重北医療センターいなべ総合病院<br>看護師　腰高　秋子 |
| 最優秀賞 | 当院におけるビーフリード輸液<br>未開通事例の分析と対策 | 鈴鹿中央総合病院<br>薬剤師　山中　祐治 |
| | ＭＲＩ検査説明書・問診票の改定について | 三重北医療センター菰野厚生病院<br>診療放射線技師　岡部　浩之 |
| | 当センター臨床検査科における医療安全マニュアルの構築 | 南島メディカルセンター<br>臨床検査技師　前川　恵利奈 |
| | 採血取り直し件数減少への取り組み | 大台厚生病院<br>臨床検査技師　久保　早稀子 |
| | 胃瘻造設患者の誤薬再発防止への取り組み | 鈴鹿厚生病院<br>看護師　川瀬　勝美 |
| 優秀賞 | 不穏状態にある高齢認知症患者への関わり<br>～チーム医療の一例～ | 松阪中央総合病院<br>精神科薬物療法認定薬剤師<br>小西　喜昭 |

（教来石信彦通信員）